

平成28年度科学研究費助成事業を公募

平成28年度の科学研究費助成事業について、次の研究種目の募集を開始しました。

文部科学省取扱い分

「新学術領域研究」「特別研究促進費」

日本学術振興会取扱い分

「特別推進研究」「基盤研究」「挑戦的萌芽研究」「若手研究」「研究成果公開促進費」

公募内容、応募手続きについては、それぞれの公募要領をご覧ください。

- 文部科学省科学研究費助成事業ホームページ
http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/main5_a5.htm
- 日本学術振興会科学研究費助成事業ホームページ
<http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/index.html>

国際共同研究加速基金によるプログラムを公募

国際社会における我が国の学術研究の存在感を向上させるため、平成27年度に「国際共同研究加速基金」を創設しました。

国際共同研究加速基金による「国際共同研究強化」「国際活動支援班」「帰国発展研究」の各プログラムの詳細につきましては、以下のホームページをご覧ください。

- 日本学術振興会科学研究費助成事業ホームページ
https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/35_kokusai/index.html

平成28年度概算要求の公表

文部科学省の平成28年度概算要求が公表されています。

科研費の概算要求額は、平成27年度と比べ、147億円増の2,420億円です。基盤研究種目の助成水準の確保を図りつつ、挑戦性を追求することとしており、新たな学問領域の創成や異分野融合につながる挑戦的な研究支援を行う新プログラムや、次代を担うPIが継続的・安定的に研究に取り組めるようにするための重点支援等を要求しています。

- 平成28年度文部科学省 概算要求等の発表資料一覧（8月）
http://www.mext.go.jp/a_menu/yosan/h28/1361286.htm

「科研費改革の実施方針」の策定

科学技術・学術審議会学術分科会の審議を踏まえ、科研費改革の具体的な工程等について示した「科研費改革の実施方針」を策定しました。

当該実施方針においては、①審査システムの見直し、②研究種目・枠組みの見直し、③柔軟かつ適正な研究費使用の促進といった改革を行うこととしています。

平成27年度科研費の交付内定（6月1日以降）について

「科研費NEWS 2015年度VOL.1」で平成27年5月31日現在の交付内定状況についてお知らせしたところですが、それ以降、以下の研究種目について交付内定を行いました。

「新学術領域研究（研究領域提案型）の新規の研究領域」

「基盤研究（B・C）の特設分野研究（新規）」

「研究活動スタート支援（新規）」

「特別研究員奨励費（第2回）」

平成27年度科学研究費助成事業（科研費）の採択課題を公表しました。

平成27年度科学研究費助成事業（科研費）の採択課題については、国立情報学研究所の科学研究費助成事業データベースで公開しています。

科学研究費助成事業データベースでは、過去の研究実績や研究成果の概要も公開しています。（採択課題については昭和40年度分から、研究実績や研究成果の概要については昭和60年度分からのデータを収録しています。）

詳細については、以下のホームページをご覧ください。

●国立情報学研究所の科学研究費助成事業データベース <https://kaken.nii.ac.jp/>

平成27年度科学研究費助成事業の配分について公表しました。

平成27年度の科学研究費助成事業（科学研究費補助金及び学術研究助成基金助成金）について、ピア・レビューによる厳正な審査を経て、約3万件を新規採択し、新規採択分と継続分を合わせて総額約2千億円（直接経費・間接経費）を配分しました。

区 分	研究課題数			配分額 (百万円)	1 課題あたりの配分額	
	応募件数 (件)	採択件数 (件)	採択率 (%)		平均 (千円)	最高 (千円)
新規採択のみ	(104,093)	(29,770)	(28.6)	(66,770)	(2,243)	(174,800)
	106,878	29,989	28.1	67,347	2,246	180,700
新規採択+継続分	(154,446)	(80,007)	—	(172,796)	(2,160)	(174,800)
	157,904	80,800		167,098	2,068	211,300

※配分額は直接経費

※（ ）内は前年度を示す。

※基金化した研究種目については、平成27年度の当初計画に対する配分額を計上している。

※「新学術領域研究（研究領域提案型）『生命科学系3分野支援活動』」、「特設分野研究」、「特別研究促進費」及び「特定奨励費」を除く。

詳細なデータについては、下記のホームページをご覧ください。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/1296236.htm

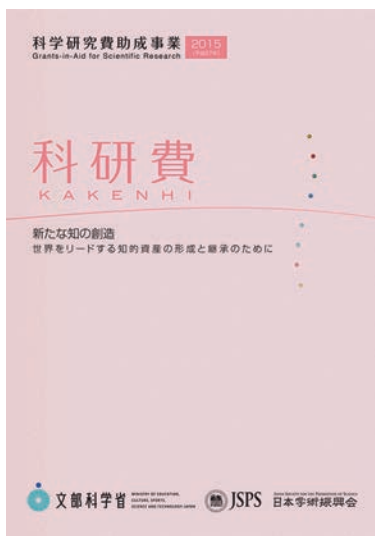
科研費FAQの更新、科研費パンフレット、科研費ハンドブック（研究者用・研究機関用）2015年度版を発行しました。

文部科学省及び日本学術振興会では、科学研究費助成事業をよりよくご理解いただくために、科研費FAQのホームページへの掲載、科研費パンフレット、科研費ハンドブック（研究者用・研究機関用）を発行しています。

この度、科研費FAQの更新、パンフレット、ハンドブックの2015年度版を発行しました。

以下のホームページより閲覧可能となっておりますので、ご活用ください。

- 科研費FAQ http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/faq/1306984.htm
- 科研費パンフレット http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/24_pamph/index.html
- 科研費ハンドブック http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/15_hand/index.html



科研費パンフレット



科研費ハンドブック（研究者用）



科研費ハンドブック（研究機関用）

平成27年度ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞を授与しました。

「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」とは、科学研究費助成事業（科研費）により行われている最先端の研究成果に小中高校生の皆さんが、直に見る、聞く、ふれることで、科学のおもしろさを感じてもらおうプログラムです。

継続的に本プログラムを実施し、我が国の将来を担う子供たちの科学する心を育み知的好奇心の向上に大きく貢献した研究者を讃えるとともに、科研費による研究成果を積極的に社会・国民に発信することを目的として、日本学術振興会研究成果の社会還元・普及事業推進委員会で選定した25名の研究者に対し、ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞を授与しました。

詳細については、以下のホームページをご覧ください。

- 「ひらめき☆ときめきサイエンス」のホームページ <http://www.jsps.go.jp/hirameki/index.html>
- 平成27年度ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞の授与について http://www.jsps.go.jp/hirameki/10_suisin.html

論文の引用状況から見る科研費制度の成果の分析

1. はじめに

科研費は大学等における様々な研究を支える日本で最大の競争的資金制度です。個々の科研費や科研費制度全体の成果について明らかにすることは容易ではありませんが、科研費で行われた研究の論文の被引用状況を見ることにより、科研費制度の成果分析を試みました。

その結果、科研費で行われた論文の被引用状況の平均は、日本全体の平均や科研費を得ていない研究の平均に比べて、顕著な優位性が見られることが分かりました。このことから、科研費制度が日本の科学研究の質の向上に大きく寄与しており、科学技術政策上も大きな成果をあげていることが明らかになりました。

なお、この分析結果については、平成26年10月にCGSIレポート第1号「Scopus収録論文における科研費成果論文の分析」として日本学術振興会のホームページでも公表していますのでご覧ください¹。

2. 分析の方法

今回の分析では、エルゼビア社の文献データベースScopusを用いました。Scopusには、世界の21,000誌以上の主に英文のジャーナルに掲載された論文等の情報が幅広く収録されており、この中には社会科学系のもも含まれています。

科研費の研究課題については、毎年度、研究実績報告書が提出されますが、そこに記載されている論文等のデータは、国立情報学研究所の「KAKEN」でデータベース化されています。分析では、まず、KAKENに収録されている論文情報とScopusの論文情報のマッチングを図り、これを「科研費論文」として特定しました。

Scopusの論文の中で、論文の著者が日本の研究機関に所属している論文が「日本論文」になりますが、そのうち科研費論文は約44万件で、日本論文のおよそ3割を占めました。また、日本論文から科研費論文を除いた論文を「非科研費論文」としました。これらを比較対象の論文群として、一論文あたりの平均被引用数、引用の多いTop10%論文の割合などのデータを比較しました。

3. 一論文あたりの被引用数

図1は日本論文、科研費論文、非科研費論文のそれぞれについて、一論文あたりの被引用数の比較を行ったものです。被引用数は、時間が経過するにつれ累積的に増加するため、出版された時期が新しいほどその数は少なくなりますが、対象とした期間全体において、科研費論文は、非科研費論文のほぼ2倍以上、日本論文の1.5~1.6倍程度引用されていることがわかります。

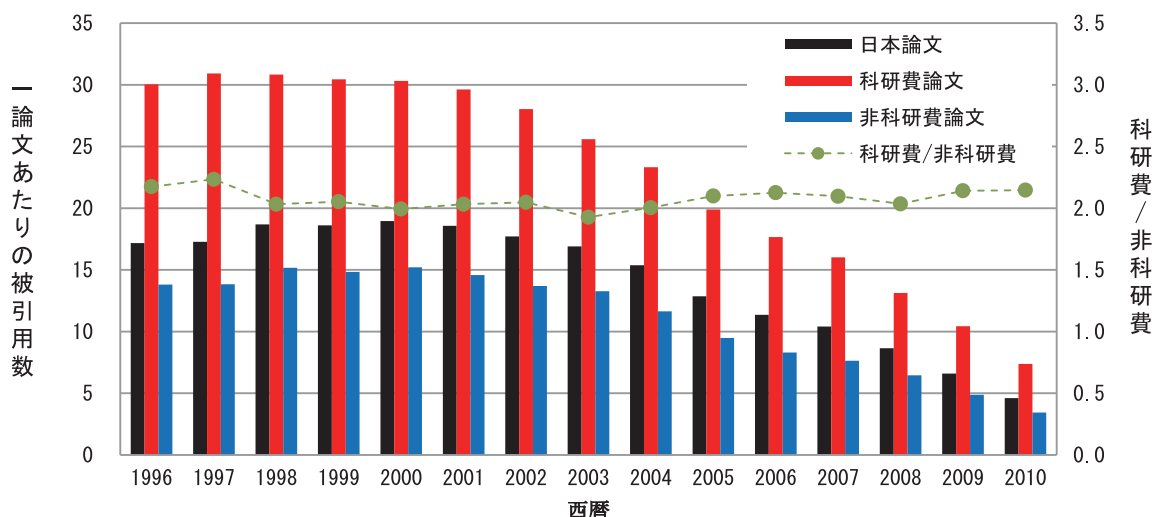
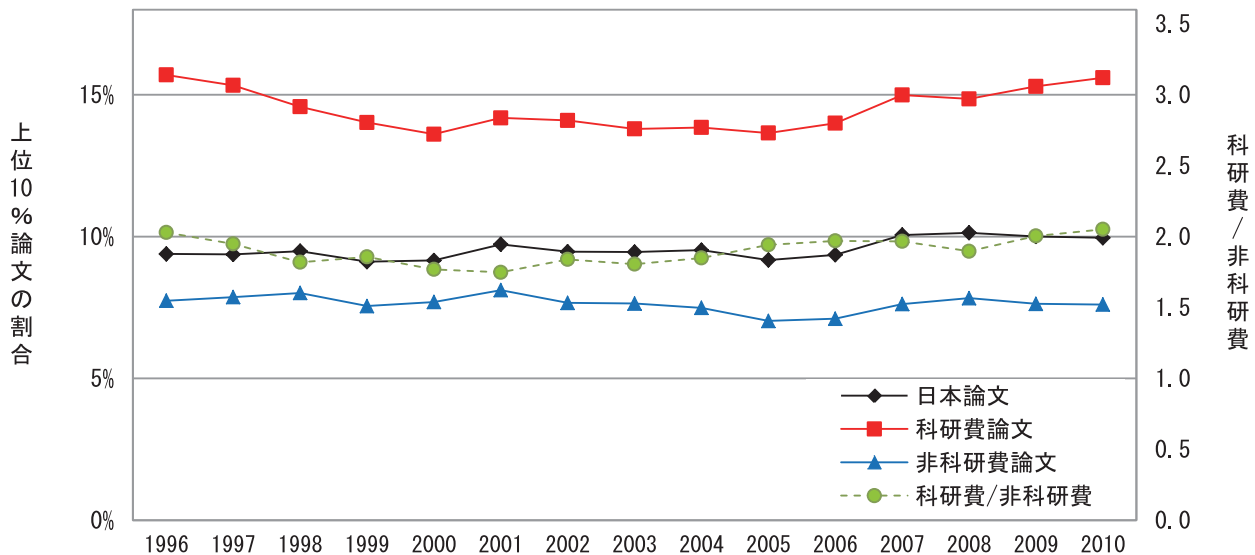


図1 日本論文、科研費論文、非科研費論文の一論文あたりの被引用数の推移

¹ http://www.jsps.go.jp/j-cgsi/chousa_bunseki.html

4. 被引用数上位10%論文の割合

次に、被引用数の多い論文を抜き出して、分析を行いました。図2は、被引用数が上位10%に入る論文の割合について比較したものです。被引用数は分野によって大きな違いがありますが、ここではその違いを考慮した上で、該当する論文を分析しました。この分析でも、科研費論文は、日本論文や非科研費論文に比べて被引用数上位10%の割合が高く、年により多少の変動はありますが、科研費論文は非科研費論文に比べてほぼ2倍弱、日本論文に比べて1.5倍程度の高被引用論文が含まれていることがわかります。



西暦

図2 Scopusにおける日本論文、科研費論文、非科研費論文の被引用数上位10%論文の割合の推移

5. 海外における同様の分析（英国医学研究会議の例）

今回のような分析を行っている海外のファンディングエージェンシーは多くありませんが、英国のリサーチカウンシルのひとつである医学研究会議（Medical Research Council：MRC）が、トムソン・ロイター社によるnormalised citation impact（nci）と呼ばれる被引用指標を用いた分析を行っています（Economic Impact Report 2011/12）。この報告の中では、英国全体のnciが1.39であるのに対し、MRCの支援を受けた研究者（対象数3,841人）による研究成果のnciは2.16であり、英国全体の値の約1.55倍優位であることが示されています。日本の科研費の支援研究者数が非常に多いこと、科研費はMRCに比べて少額の支援が多いことからすれば、分析方法は異なりますが、科研費がこれと同程度の優位さを示していることは高く評価されてよいものと考えられます。

6. おわりに

以上、科研費による論文の分析について、海外の事例を交えて紹介しました。研究の成果は論文の被引用数等だけで測れるものではありませんが、文献データを分析することにより、科研費の学術研究活動に果たす役割を再確認するとともに、更なる改善に向けた取り組みへの有効な手がかりを得ることができると考えています。日本学術振興会では、こうしたデータ分析の結果を発信して科研費制度に対する理解を拡げるとともに、科研費制度の改善にも活かしていきたいと考えています。